

高等小學書方手本  
新制第三學年用下甲種

K140.72  
1.1  
3下a

K140.72

1.1

3下a

文部省著作新制第三學年用下甲種

高等小學書方手本

發賣所

株式會社 國定教科書共同販賣所

霜滿軍營秋氣清。

數行過雁月三更。

越山并得能州景。

遮莫家鄉憶遠征。

妹某事永と病業の安養生不相叶今朝  
四時三分死去致し百敷敷はずは知る中上印。

六

新四子  
新四子

由手厚き由介抱の甲斐もなく終に由逝去  
は持由由喜、由愁傷の由事とは不察しり上印。

七

八  
身體髮膚之を父母に受く。敢へて  
毀傷せざるは孝の始なり。身を立て

九  
道を行ひ名を後世に揚げ以て父  
母を顯すは孝の終なり。

券。卷。若。苦。唯。誰。決。

快。暮。墓。遣。遺。施。旋。

感。感。殘。餞。怒。怒。頂。

十一

項。容。容。傳。轉。簿。簿。

十二

新舊字下



株券卷紙老若苦勞唯今誰人決斷。  
愉快夕暮墓參派遣遺憾施與周旋。

感服迷惑殘念餞別憤怒宥恕頂戴。  
條項容態來客傳言移轉簿儀帳簿。

私儀卒業後は家事を手傳ひ居りて家  
此の儘にては将来の見込お立たず申  
相應なる商店に幸公致し業務の

實際を見習ひ存外。就いては古多忙  
中甚だ怒入へども志心當の向はは紹介  
以下及然任外。

渡邊氏は在學中品行方正學術優  
等なる之珠に珠算と書き方とては  
全校中其の右に出づる者無かりし由

に於ては先日お話の向には最も適任と  
存す。由採用されしは、同氏の一身上に  
關しては小生等より引受け可申す。

机下侍史御許平

三十一

新高子

信至急親展貴酬

三十一

新高子

蓬生麻中不扶自直。  
白沙在泥與之俱黑。

二十二

新書下

青取之藍而青於藍。  
冰水為之而寒於水。

二十三

新書下

在鄉有志來臨。遠望行程往復。意向  
歡迎送別。贈呈供給。具備所為成績。

早晚遲速。就職交付。附屬繼嗣。接續  
振動奮發。選舉撰述。取捨固執。採用。

朕惟フ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルニト宏遠ニ  
徳ヲ樹ツルニト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク

新舊三下

孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々歆美ヲ濟セルハ此レ我カ  
國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス

爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友  
相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修ソ

夫

新舊字下  
新舊字下

業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ  
公益ヲ廣ク世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ヲ導ヒ

二十九



一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ  
皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ

臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯  
彰スルニ足ラン

斯道實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫  
臣民俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ

謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ  
拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

仰げば尊し我が師の恩。教の庭にもはや幾歳。  
思へばいと疾し此の年月。今こそ別れぬがさらば。  
互に睦みし日頃の恩。別る後にもやよ忘るな。

身を立て名を揚げやよ勵め。今こそ別れぬがさらば。  
朝夕なれにし學びの窓。螢の燈火積む白雪。  
忘るる言ぞなき行く年月。今こそ別れぬがさらば。

OK 1401/2-11-3Fa

明治四十一年七月二十日印刷  
明治四十一年八月廿二日發行  
明治四十一年九月三日發行

著作權所有

明治四十一年八月廿九日  
文部省檢査濟

發賣所

發行所  
東京市日本橋區新  
右衛門町拾六番地

株式會社  
三井物產株式會社

國定教科書共同販賣所

著者兼發行者  
書者刻者  
發行所  
印刷所

日文部

高部  
井忠

秩父省

高等小學書方手本 新編第三學年用下甲種

定價金參錢五厘

